

【名称】中西家住宅 (sasarai)

【所在地】丹波篠山市日置397番地

【指定番号】第3号

【指定年月日】平成28年2月16日

【構造】①主屋：木造平家建
②離れ：木造2階建
③土蔵：土蔵造2階建（3棟）
④土塀

【敷地面積】約708㎡

【建築面積】約389㎡

【延床面積】約492㎡

【建築年代】江戸後期



中西家住宅 (sasarai)

【建造物の由来・沿革・特徴】

丹波篠山市の東部、日置地区の旧街道沿いに建つ旧庄屋住宅。建物外観はほぼ建設当初の姿が残されている。

約150年前に庄屋住宅として建築され、以降住居として利用された。

敷地内には正面側に主屋、北側に間口がほぼそろった土蔵が3棟と離れ1棟が並ぶ。旧街道に面する主屋は妻入り平家建で、丹波篠山の街村としての伝統的な意匠となっている。

平成23年に改修工事を行い古民家複合商業施設「sasarai」としてオープンした。

現在のテナントは、里山旬菜料理「ささらい」、スイーツ&カフェ「とあさせ篠山店」、自然素材の服と手しごと「mokono」、薪ストーブのある暮らし「SATOYAMA STOVE」の4店舗が営業している。



位置図

【指定理由】

旧街道筋に残る間口の広い妻入りの庄屋屋敷として貴重であり、平成23年に空き家活用として外観や間取りを大きく改変することなく改修され、複合店舗として市民にもよく利用されている。

主屋は木造平家棧瓦葺、入母屋妻入り片土間形式の2列6間取りで、壁面は細格子や荒格子、漆喰塗りで、道路から2m後退して建てるなど、街道筋に形成された摂丹型農村家屋の特徴をよく残している。特に玄関付近の格子、荒格子、細格子は、建設当初のものがよく残されており、旧街道沿いの雰囲気は今に伝えている。また、主屋の裏に中庭を介して土蔵3棟と離れが連なる景観は、北側の国道372号からもよく目立ち、存在感ある佇まいとなっている。

日置集落のほぼ中央に位置しており、近接して立地する県の景観形成重要建造物の中立舎等とともに市街化しつつも旧街道沿いに形成された日置集落の歴史的な町並みの面影をよく伝えており、地域にとっては歴史を語るうえで欠かせない存在感のある建物となっている。